

第17回和水町分館親善ペタンク大会を開催

9月25日回、和水町多目的広場で第17回和水町分館親善ペタンク大会を開催しました。素晴らしい天候に恵まれ、4パートに分かれて、42チーム、約130人による熱戦が繰り広げられました。

コロナ禍ではありましたが、感染対策をしっかり行い、和気あいあいと分館の親睦を深めることができました。

各パートで優勝されたチームの皆さん、おめでとうございます！

Aパート	優勝	上津田B	準優勝	中吉地A
Bパート	優勝	板橋東A	準優勝	下吉地B
Cパート	優勝	内田A	準優勝	下大田黒A
Dパート	優勝	下津田B	準優勝	板橋東B



Aパート優勝 上津田B



Bパート優勝 板橋東A



Cパート優勝 内田A



Dパート優勝 下津田B

地域活性化起業人が着任しました！

地域活性化起業人とは？

三大都市圏に所在する企業などの社員が、そのノウハウや知見を活かし、一定期間、地方自治体において、地域独自の魅力や価値の向上、地域経済の活性化などの業務に従事し、地方などの人の流れを創出するものです。

本町では、産業経済新聞社と協定を締結。起業人には3年間従事してもらいます。

取組内容

本町では、観光振興を目的に、次の2点に取り組みます。

- ①自然を活かした体験型の観光商品の開発およびPR
- ②地域産品の販路開拓など

地域活性化起業人からのごあいさつ



あやこ
橋口 紋子さん
産経新聞社

はじめまして、このたび和水町の地域活性化起業人となりました、産経新聞社の橋口 紋子（ハシグチ アヤコ）と申します。神奈川県横浜市出身です。横浜市というと、ベイブリッジや中華街などの海側をイメージされる人がいらっしゃるかもしれませんが、都会に近く緑が多い、のんびりした住環境で育ちました。趣味はスポーツ観戦&撮影で、前所属部署のサンケイスポーツ新聞とつながりのある東京ヤクルトスワローズ、地元球団の横浜DeNAベイスターズを中心に楽しんでいます。

地域活性化起業人として、和水町の皆さんとお会いし、豊かな自然や文化、魅力的な場所や施設がある和水町で活動できることを楽しみにしております。

まずは、私が産経新聞社で現在所属する部署では「TEAM和水町」を結成しました。よりたくさんの人に和水町を知っていただけるよう、これから、地図上に設定

されたチェックポイントを制限時間内に巡る競技「ロゲイニング」を行うイベントや、インターネット上での農作物の販売展開などを検討したいと思います。

産経新聞社が蓄積している知見やノウハウを活用し、他の地域との差別化を図り、全国に知られる足掛かりになれば幸いです。和水町の良いところを九州、全国に知ってもらおうチャンスを活かせるように頑張りたいと思います。

これからたくさんの和水町の皆さんとお話しし、私自身、もっと和水町の魅力を発見、発信していけたらと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。



協力に感謝 献血功労団体表彰

日本赤十字社熊本県支部長より、献血の推進活動に功労のあった団体に対して感謝状が贈呈され、ニシヨリ株式会社熊本工場（竈門）が、これまでの継続的な活動が認められて「日本赤十字社熊本県支部長感謝状」を受賞されました。

8月31日回、石原町長より福田竜也工場長へ感謝状の伝達が行われました。

福田工場長は、「これからも1人でも多くの社員に献血をしてもらえるよう取り組んでいきたい。」と話されていました。



石原町長（左）、福田竜也工場長（中）、吉岡健介さん（献血担当者）（右）

熊本県交通安全功労者（県知事）表彰を受賞

9月21日回、合志市文化会館において、令和4年度熊本県交通安全功労者表彰式が行われ、菊川ヨリ子さん（前原）が熊本県交通安全功労者表彰を受賞されました。

この賞は、地域における交通の安全に貢献し顕著な功績のあった人に贈られるものです。

菊川さんは、多年にわたり、和水町交通安全母の会会長を務め、交通安全教室や交通安全キャンペーンなどに積極的に参加し、交通安全思想の普及・高揚に貢献したことが評価されました。



石原町長（左）に表彰を報告した菊川ヨリ子さん（右）

中山間農業奮闘記 vol. 4

上久井原集落は、県の中山間農業モデル地区強化事業に取組み3年目。これまでに補助事業で用水路の補修、排水施設の整備などにより水田機能を高めました。また、機械整備にも取り組み堆肥散布機を更新したことで、施肥にかかる作業時間短縮と労力の軽減も図りました。

そして、今年は収益向上につながる新規作物として「ショウガ」を試験的に栽培開始しています。5月上旬に定植を行い、7月下旬には中耕・培土、その後、乾燥防止と雑草抑制のため、もみ殻を畔上に敷き詰めました。適期防除に努め、今月は収穫を迎えます。収穫したショウガは来年度の種子とするため一部貯蔵し、継続して生産できる仕組みづくりを検討していきます。



生育途中の様子（9月中旬）

防災を楽しく学ぶ！

9月25日回、緑彩館敷地内にて遊びながら学べる防災イベント『あそぼうさい』が開催されました。このイベントはこくみん共済コープの助成金を受け、ひとり親家庭団体「てとてとて玉名郡」が主催したもので、防災マップの確認や非常時のトイレ実験、非常持ち出し袋づくりなどが行われ150名以上の親子が参加し大盛況。皆さん楽しそうに学ばれていました。

主催の和水町ひとり親会長で防災士の柳原志保さん（馬場）は「防災は難しいイメージがあるが、暮らしの延長でもできるもの。誰もが取り組めるように、まずは楽しく学ぶことから始めてほしい。またコロナ禍で減少した“人とのつながり”の創出にもなったら嬉しい」と話されていました。



非常時のトイレ実験のようす